



ワイヤレスコネクティビティテストセット MT8862A



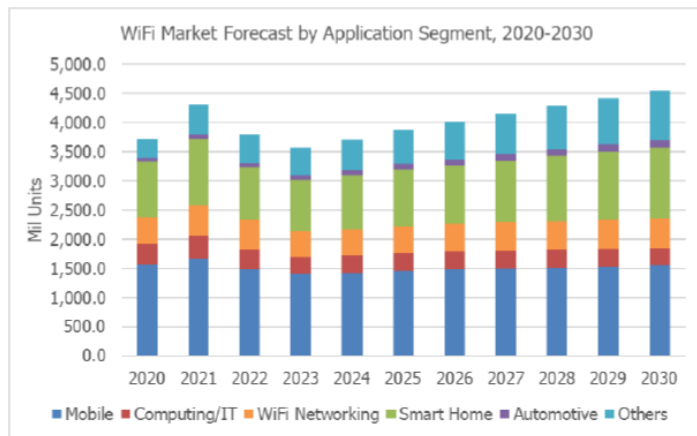
目次

- 市場動向とソリューション
- MT8862A 製品紹介
- MT8862A 最新機能
- MT8862A 応用試験



市場動向とソリューション

WLAN市場の拡大するセグメント



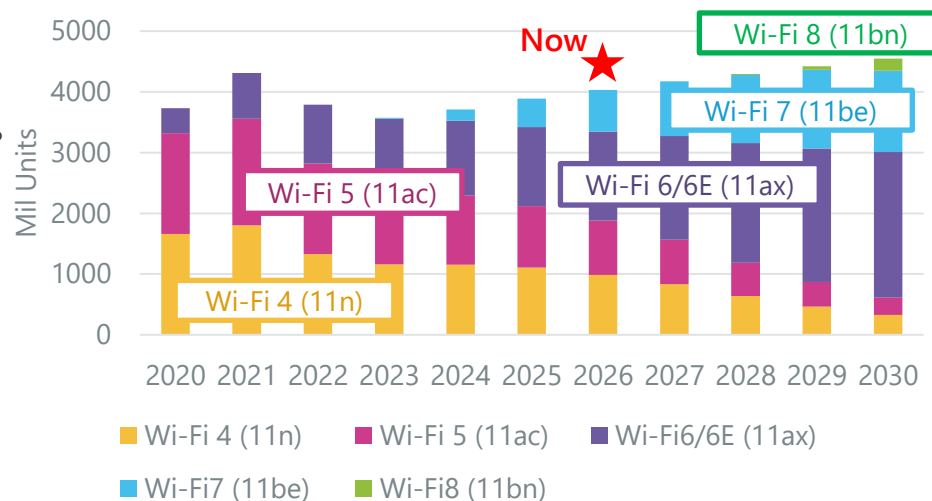
MobileやComputingだけでなくSmart Home、Automotive、Wearables 等身の回りのあらゆるデバイスへのWLAN搭載が広がっています。IoTデバイス数は、年々増加傾向にあり、今後も市場拡大が想定されています。

参照：Techno System Research: 2024
Wireless Connectivity Market Analysis

IEEE 802.11beの普及

IEEE 802.11beは2024年末に規格化は完了、Wi-Fi AllianceではWi-Fi 7の認証試験が開始され、対応したデバイスが出荷されています。現在IEEE 802.11be (Wi-Fi 7)やIEEE 802.11ax (Wi-Fi 6/6E)がWLANの主流になってきています。

Wi-Fi Market Forecast by Standard, 2020-2030

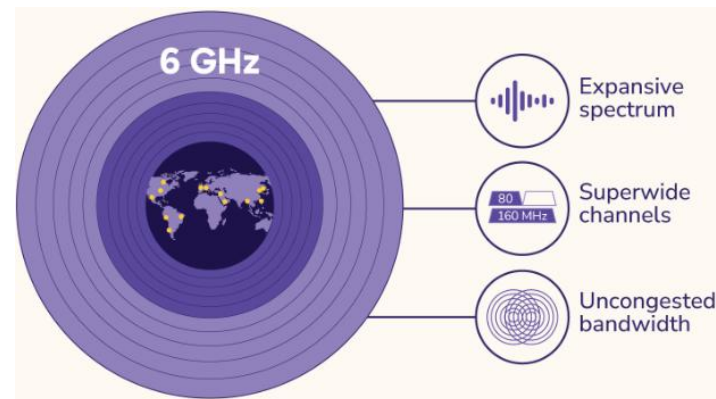


参照：Techno System Research: 2024
Wireless Connectivity Market Analysis

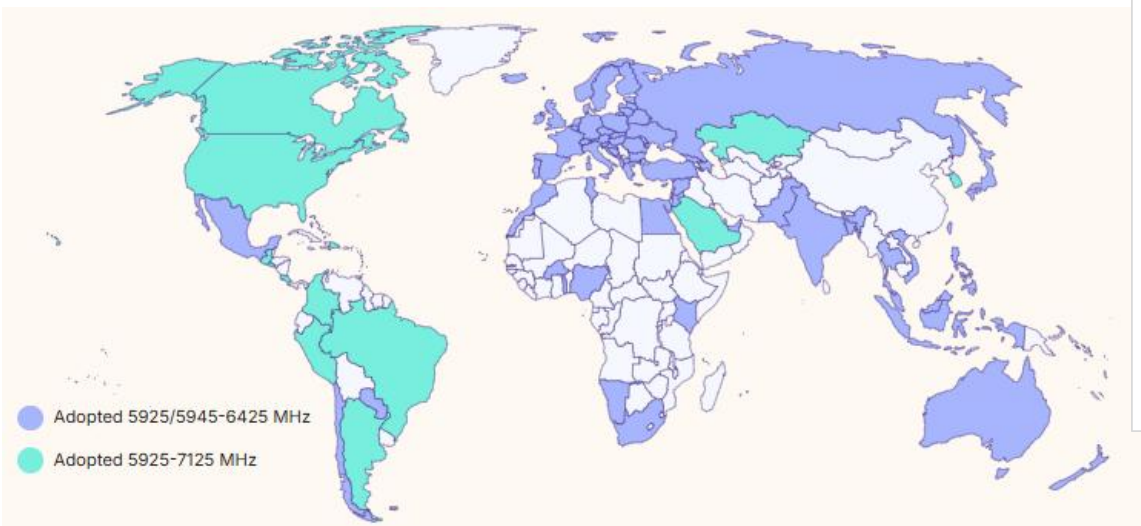
世界各国で6 GHz帯の開放が進んでいる

6 GHz帯の開放により、チャンネル数が増え、帯域幅も広くなることにより、パフォーマンスの向上が期待されます。すでに米国、カナダ、南米、韓国では5925-7125 MHzが採用されており、EU、UK、インド、日本でも5925-6425 MHzまでが採用されています。

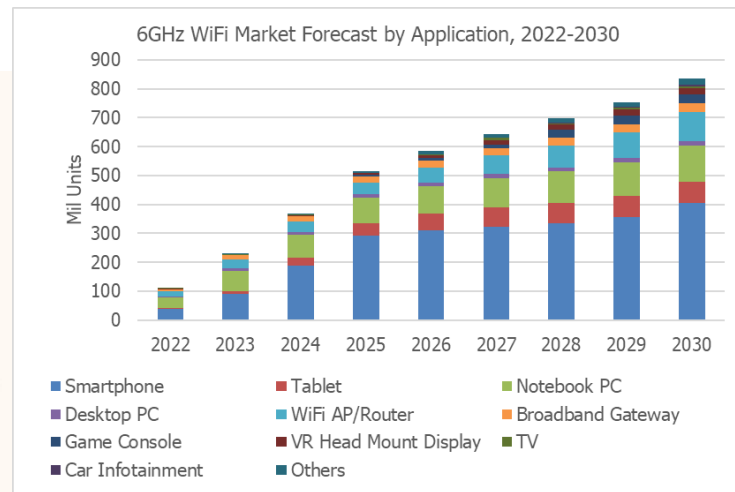
6 GHz帯に対応したデバイスの出荷台数も増えており、2025年には約500 million台、2030年には800 million台へ達することが予想されています。



参照：[Regulatory & Policy Center | Wi-Fi Alliance](#)



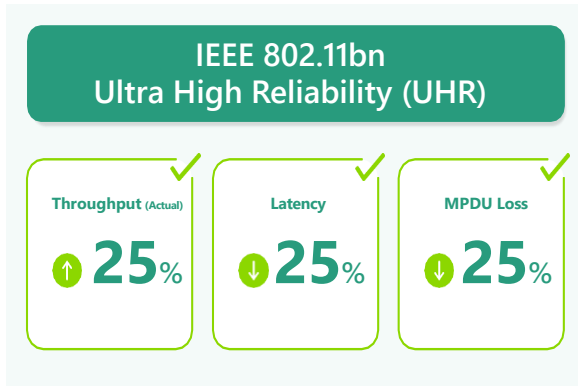
参照：[Regulations Enabling 6 GHz Wi-Fi | Wi-Fi Alliance](#)



参照：Techno System Research: 2024
Wireless Connectivity Market Analysis

IEEE 802.11bn(Wi-Fi 8)の概要

超高信頼性 Ultra High Reliability (UHR) を実現するために規格策定中。
規格目標はWi-Fi 7と比較して下記パフォーマンスの向上。



- 少なくとも1つのSINRで、**スループット25%向上**
- 遅延分布の95パーセンタイルにおいて、**遅延を25%低減**
- BSS間移動時の**MACフレームロスの25%低減**

規格化タイムラインは下記の通り。

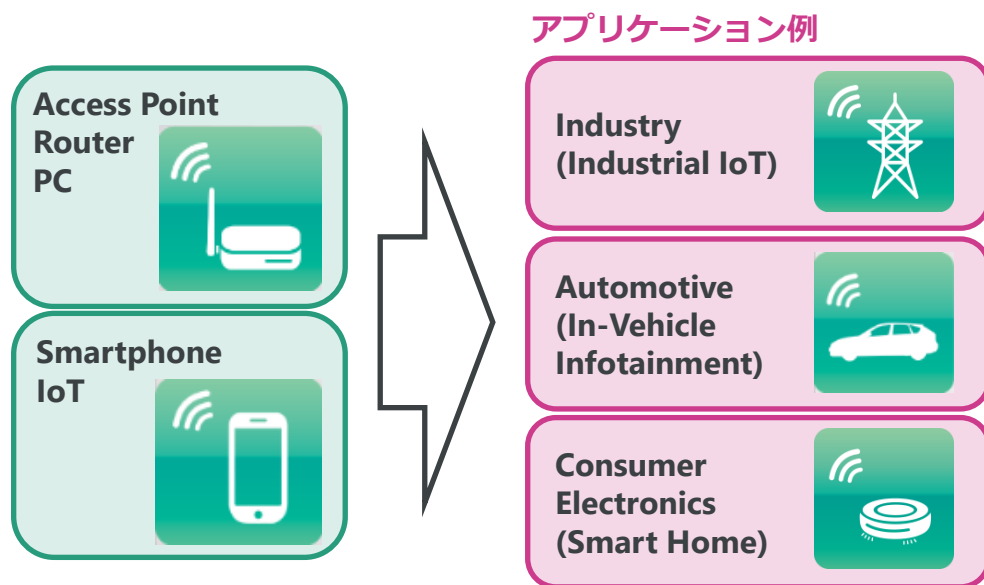


IEEE 802.11bn UHR



拡大するWLANアプリケーション

WLANが搭載されるアプリケーションは拡大しており、使われる環境や満たすべき品質もこれまでと変化してきています。その中で実運用に近い状態での評価であるネットワークモードを使用したOTA試験が注目されています。



複雑化するデバイス

デバイスに搭載される無線規格の数とアンテナ数は年々増加し、その構造も複雑化しております。そのため、これまで以上に製品の完成形での評価が必要となっています。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、アンリツはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

WLANおよびBluetooth Low EnergyのRF特性を1台で評価できるため、開発効率の向上と評価環境の最適化が可能です。

ワイヤレスコネクティビティテストセット MT8862A



ALL IN ONE for Connectivity

Wi-Fi 6E, Wi-Fi 7, Wi-Fi 8
320 MHz BW, 4096QAM
Bluetooth v6.0 Low Energy



MT8862A 製品紹介

MT8862Aは、最新のWLANおよびBluetooth技術の測定に対応する、RF性能試験用のシンプルなテストシステムを備えたシングルボックスのコンネクティビティテストセットです。

Connection

- Standards
 - IEEE 802.11a/b/g
 - IEEE 802.11n
 - IEEE 802.11ac
 - IEEE 802.11ax
 - IEEE 802.11be
 - IEEE 802.11bn
 - IEEE 802.11n/ac 2x2 MIMO
 - IEEE 802.11ax 2x2 MIMO
 - IEEE 802.11be 2x2 MIMO
 - Bluetooth Low Energy

WLAN Connection

- Network Mode / Direct Mode
- WEP, WPA/WPA2-Personal/WPA3-Personal [AP/STA]

RF

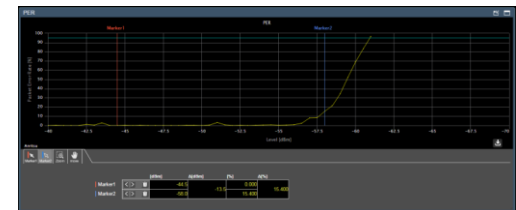
- Frequency 2.4 GHz / 5 GHz / **6 GHz band (up to 7.125 GHz)**
- Bandwidth 20 MHz / 40 MHz / 80 MHz / 160 MHz / **320 MHz**



Main Window – Tx Measurement



Rx Measurement



MT8862Aは、測定デバイスの追加セットアップ不要。
デバイスの実運用状態で簡単にすぐに測定できます。

幅広い接続性

- 各種WLANスタンダードに対応
- Access Point/Stationともに接続可能
- セキュリティ接続にも対応

すぐに使えるGUI環境

- PCのWebブラウザからGUIによる制御が可能
- 制御ソフト等のインストール不要



ワイヤレスコネクティビティテストセット
MT8862A

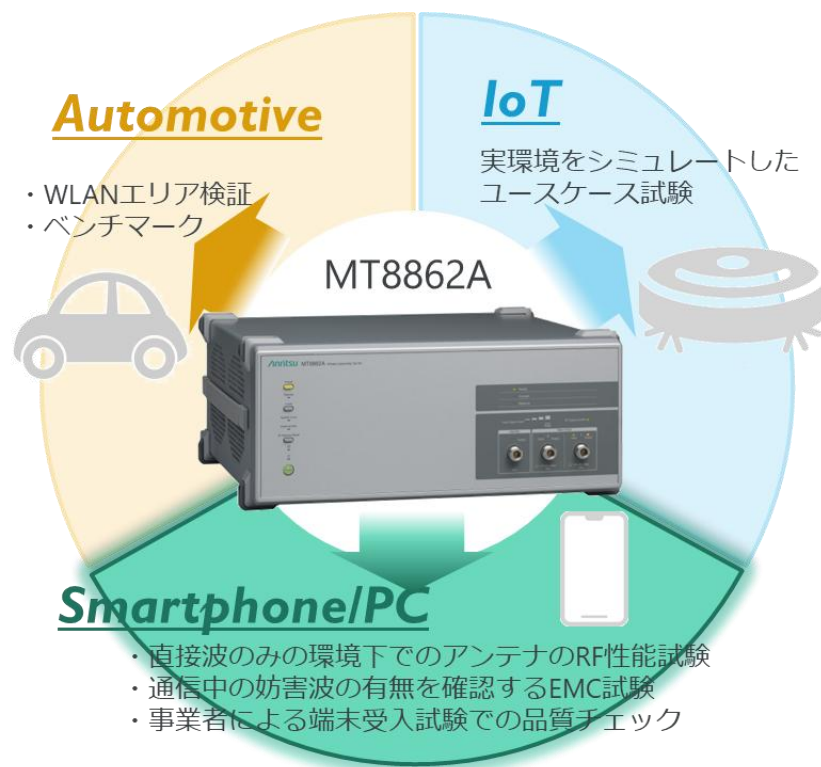
テスト用ファームウェア不要

- 商用完成品を実運用ファームウェアのまま試験が可能。

チップセット制御不要

- テスト用ファームウェアで必要となるチップセット制御が不要。

OTAからConductedまでフレキシブルな試験環境を提供



広い分野で要求されるアンテナ性能を含めたさまざまなWLAN試験内容

RF試験に有効なデータレート(MCS)制御機構を搭載

MT8862Aが対応する無線規格（11b/g/a/n/ac/ax/be/bn）のすべての通信方式で、データレート(MCS)を指定した送受信特性試験が可能です。再現性のある無線試験環境は、無線LANデバイスの無線性能試験の効率化を支援します。

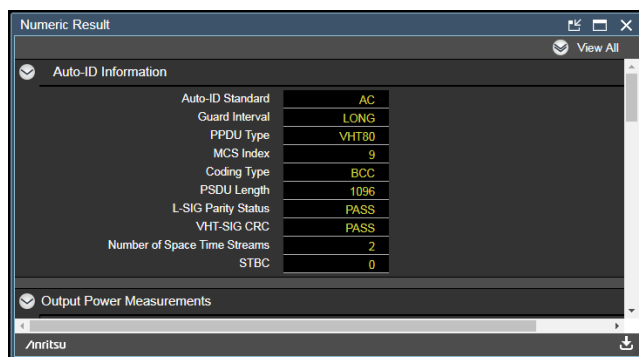
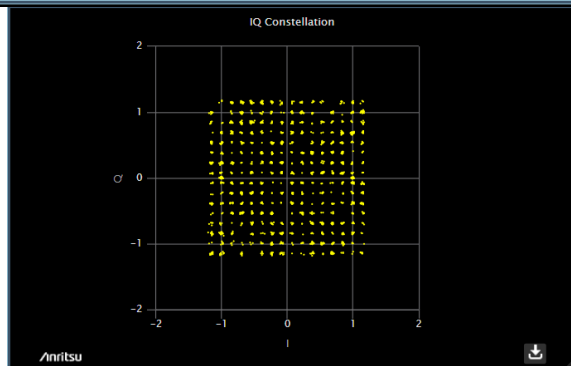
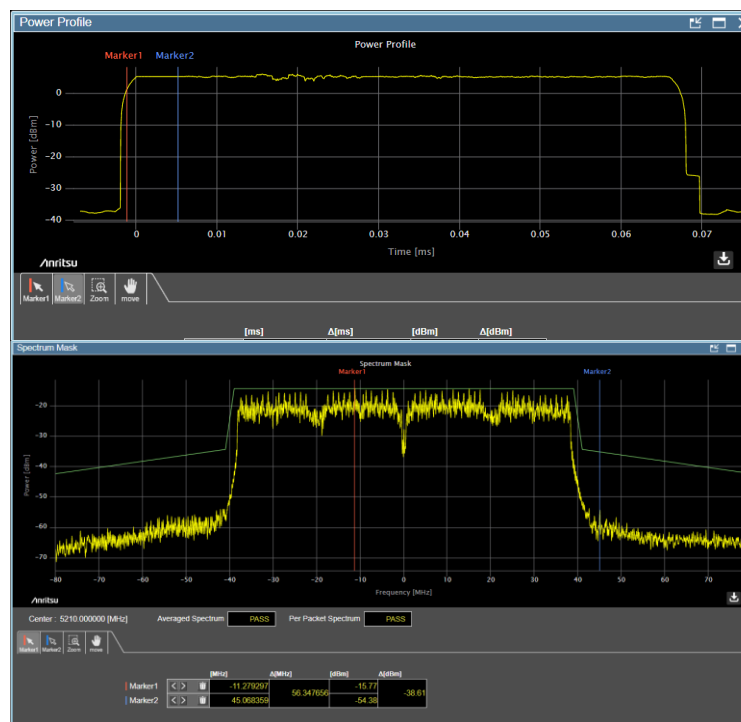
OTA試験環境に有効な広いダイナミックレンジ

MT8862Aは広い受信ダイナミックレンジ性能を持つため、OTA環境においても、確実に試験対象デバイスから出力される信号を安定して復調できるため接続安定性に優れます。暗室における簡易的なOTA評価に加えて、OTAチャンバシステムとの統合環境においても効率的な試験を提供します。

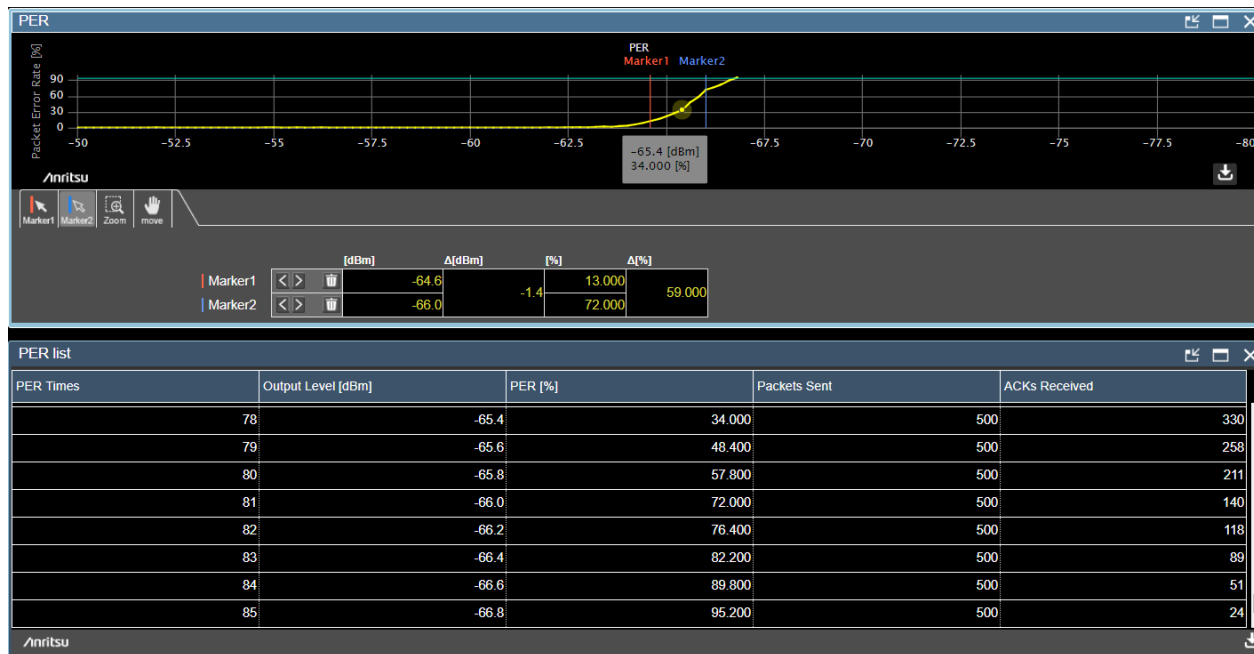
搭載が広がるMIMO製品のOTA試験に対応

2x2 MIMOに対応した無線LAN製品のOTA試験が可能です。ユーザエクスペリエンス向上のため、MIMO試験需要は増加しています。

- IEEE 802.11に準拠したRF送信特性の測定を行います。
- DUTから受信したパケットのヘッダ解析およびパワー、変調精度、スペクトラム等のRF測定を行い、結果を表示します。任意に基準値を設定し、PASS/FAILを判定できます。
- MT8862AはDUTに対して、ACK測定の場合はTest Packet, Data測定の場合はICMP Echo Requestを送信し、DUTから送信されるACKまたはICMP Echo Replyを受信することで、送信測定を行います。
- IPデータ送受信ポートを使用して送信されたパケットについても測定可能です。



- IEEE 802.11に準拠したRF受信特性の測定を行います。
- DUTに対してTest Packetを送信し、DUTから送信されるACKフレームをカウントすることによりPER/FRR測定を行うことができます。
- Power変動幅やポイント数を指定することにより自動で測定を行えます。
- ETSI EN 300 328 / 301 893 / 303 687では、2.4 GHz / 5 GHz / 6 GHzの全バンドのWLAN機器を対象として、Receiver Blocking試験でPER (Packet Error Rate)が10%以下になることが求められています。MT8862AのPER測定機能と妨害波用のSGを用いることで、簡単にこの試験を行うことができます。



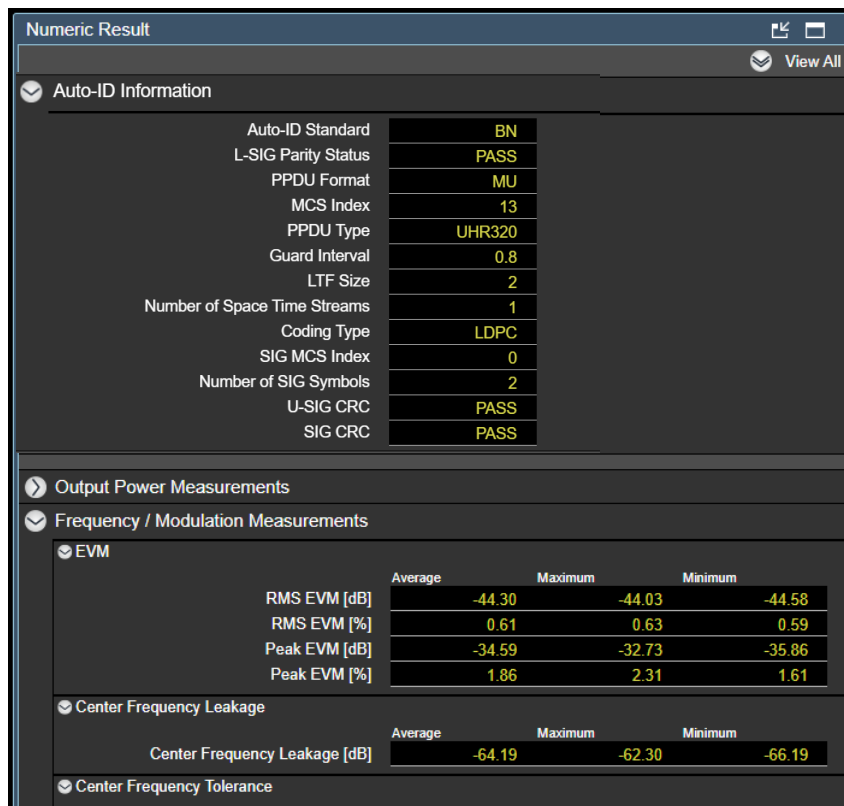
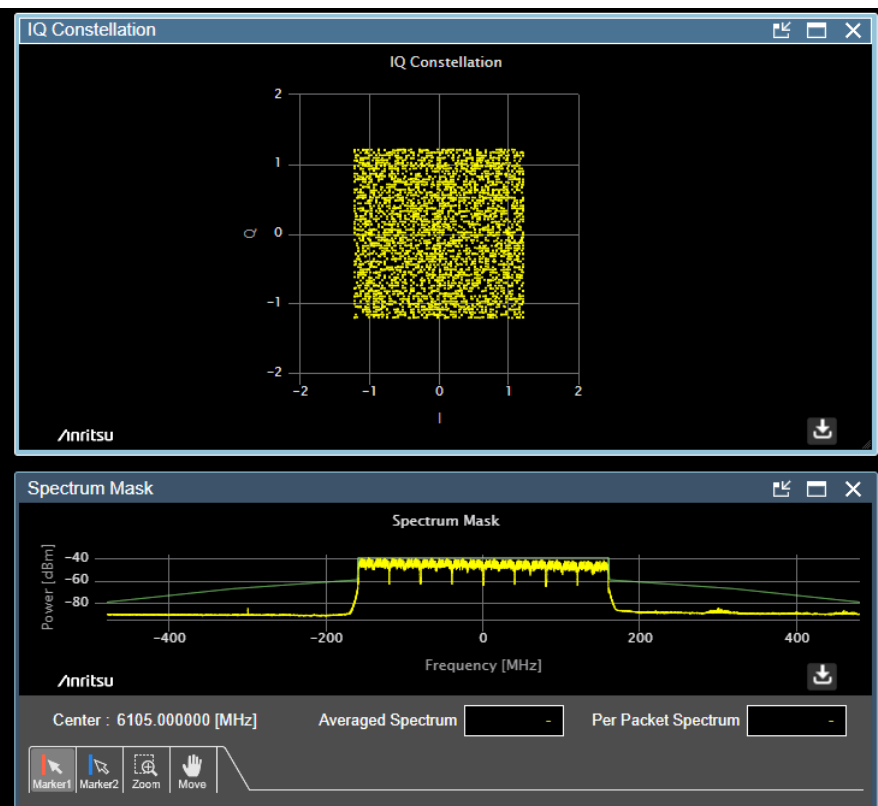
DUT接続問題解決に役立つフレームキャプチャ

- MT8862Aは、MT8862A-DUT間もしくは市販のAP-DUT間のWLANのフレームをキャプチャすることができます。キャプチャしたログは pcap形式で制御PCに保存することができ、Wireshark等のpcapログ解析ソフトにて解析することができます。別途スニファの用意が不要となり、接続問題解決のためのWLANフレームの解析がRF測定環境のまま行えます。

フレームキャプチャ MT8862A フレームキャプチャ MT8862A

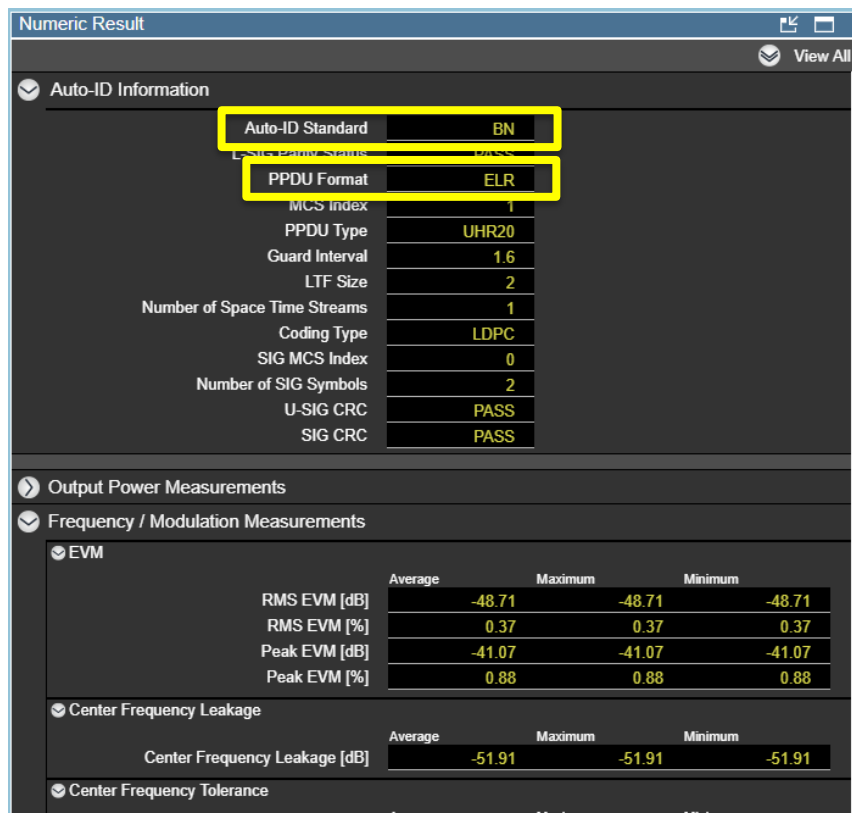
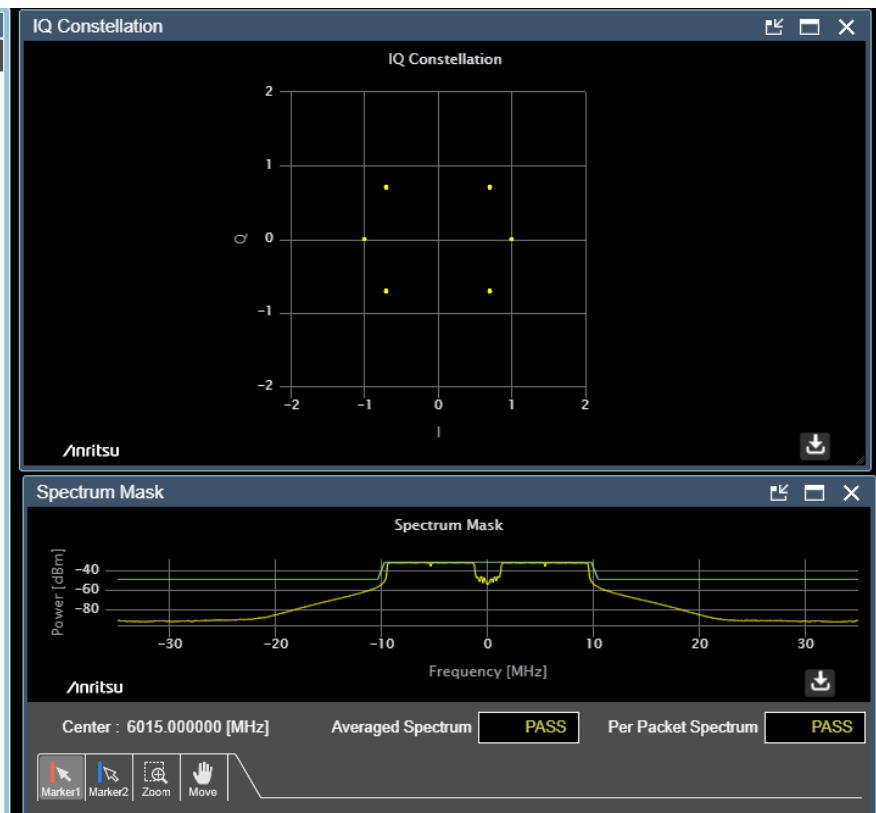
MT8862A 最新機能

- IEEE 802.11bnの送信測定/受信測定に対応しました。
- 最も厳しい条件である320 MHz帯域幅、4096QAM変調でのRF試験実施が可能です。
- デバイスが送信したパケットのヘッダ解析およびパワー、変調精度、スペクトラム等のRF測定を行い、結果を表示します。任意に基準値を設定し、PASS/FAILを判定できます。

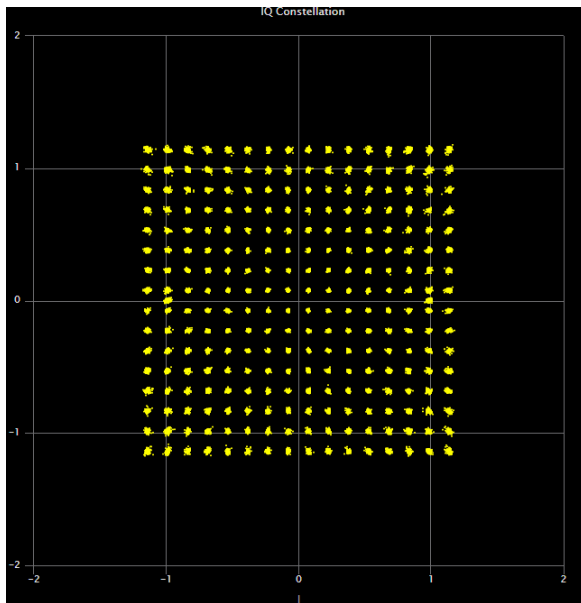


IEEE 802.11bn送信測定 ①UHR ELR測定

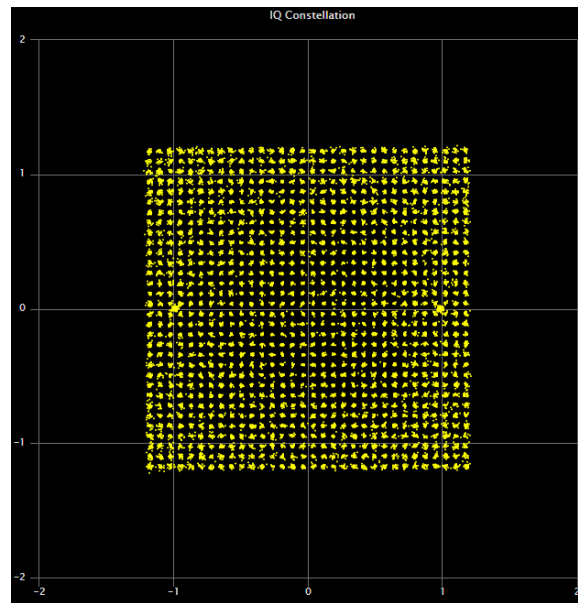
- IEEE 802.11bnのUHR ELR送信測定に対応しました。
- デバイスが送信したパケットのヘッダ解析およびパワー、変調精度、スペクトラム等のRF測定を行い、結果を表示します。任意に基準値を設定し、PASS/FAILを判定できます。



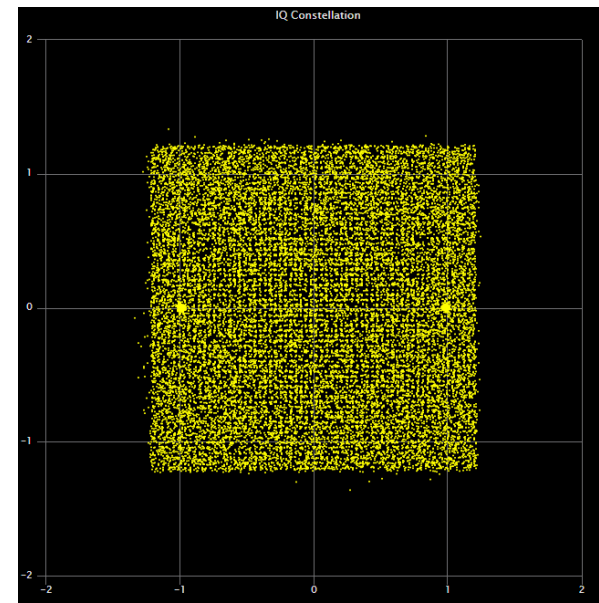
- IEEE 802.11bnでは最大4096QAM (MCS13)の変調方式が採用されています。
- デバイスが4096QAM信号を送信するには高いEVM性能(-38 dB以下)が要求されます。
- MT8862Aは4096QAM測定が可能なRF性能を実現しており、送信測定が可能です。
- MT8862Aは独自のData Rate Control機能を搭載しているため所望の変調方式のRF性能の評価が可能です。



11bn 256QAM

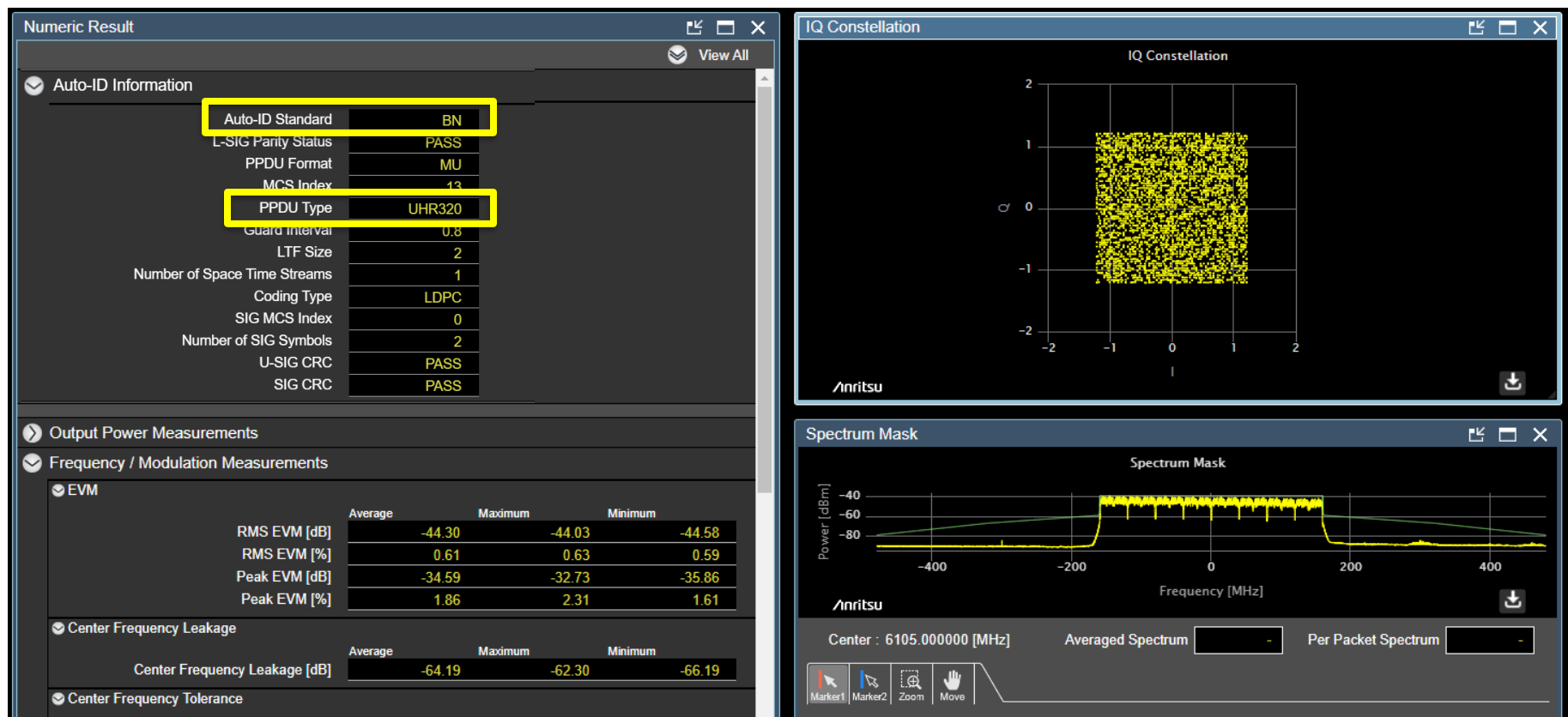


11bn 1024QAM

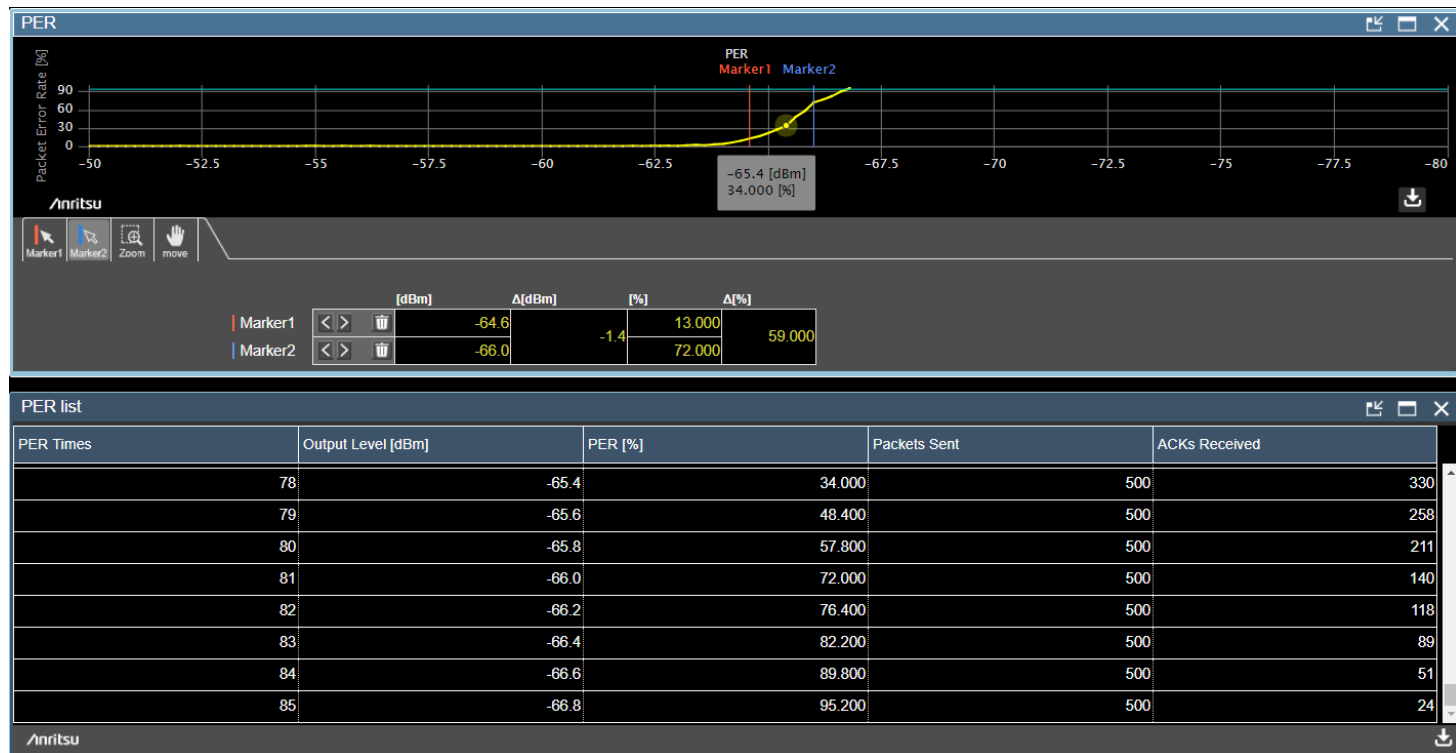


11bn 4096QAM

- IEEE 802.11bnでは6 GHz帯で320 MHz帯域幅での通信が可能です。
- MT8862Aは1台でネットワークモードとダイレクトモードでの320 MHzチャネルのTx/RxのRF測定が可能です。



- IEEE 802.11bnに準拠したRF受信特性の測定が可能です。
- UHR MUとUHR ELRに対応しています。
- 2.4 GHz帯/5 GHz帯/6 GHz帯の3帯域、320 MHz帯域幅、4096QAM変調に対応しています。
- DUTに対してTest Packetを送信し、DUTから送信されるACKフレームをカウントすることによりPER curveが測定可能です。



MT8862A IEEE 802.11bnソリューション

- ソフトウェアオプションのみの追加で柔軟なオプション構成が可能
- ご使用頂いているMT8862Aからのアップグレードが可能

ソリューション例1

Wi-Fi 7 (320 MHz BW)



- ✓ Support up to 11be
- ✓ 2.4 GHz/5 GHz/6 GHz Bands
- ✓ 20/40/80/160/320 MHz BW
- ✓ Up to 4096QAM



Upgrade

Wi-Fi 8 (11bn) 320 MHz BW



- ✓ **Support up to 11bn**
- ✓ 2.4 GHz/5 GHz/6 GHz Bands
- ✓ 20/40/80/160/320 MHz BW
- ✓ Up to 4096QAM

ソリューション例2

Wi-Fi 6E (160 MHz BW)



- ✓ Support up to 11ax
- ✓ 2.4 GHz/5 GHz/6 GHz Bands
- ✓ 20/40/80/160 MHz BW
- ✓ Up to 1024QAM



Upgrade

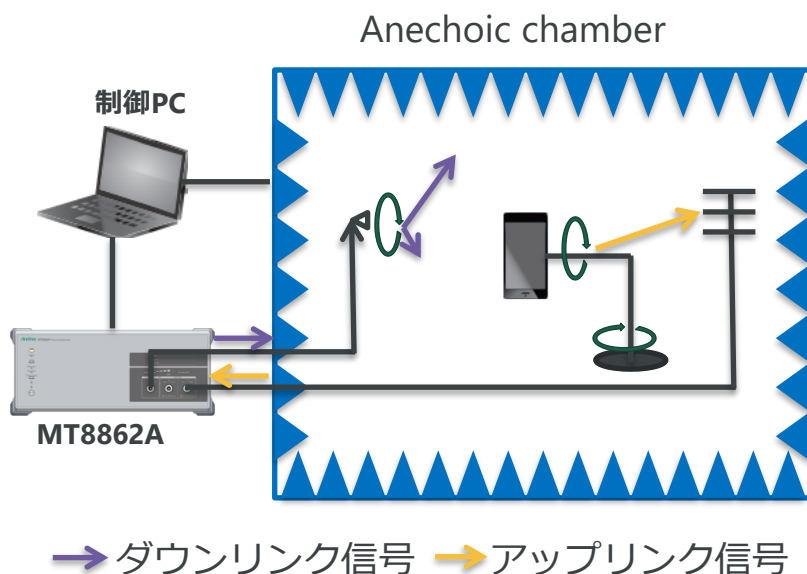
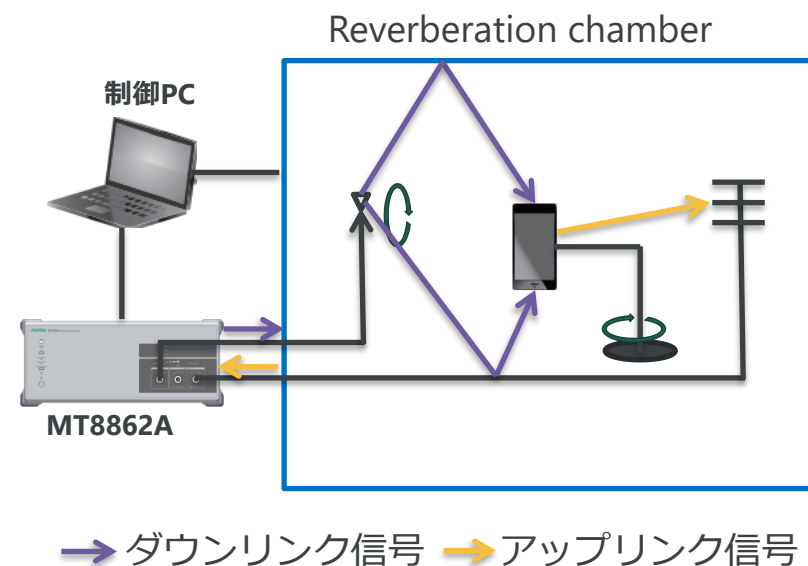
Wi-Fi 8 (11bn) 160 MHz BW



- ✓ **Support up to 11bn**
- ✓ 2.4 GHz/5 GHz/6 GHz Bands
- ✓ 20/40/80/160 MHz BW
- ✓ Up to **4096QAM**

MT8862A 応用試験

- WLAN搭載アプリケーションが広がり、WLAN搭載機器の形状や使用される環境は複雑化しています。そのため、送信電力範囲や受信感度などのアンテナ特性試験を行い、製品のアンテナ特性が想定されるパフォーマンスを満たしているかを、定量的に評価する必要性が高まっています。
- アンリツはOTAチャンバシステムベンダと協力し、OTA測定試験環境を提供します。これを用いることで、TRP/TISといった受信電力範囲や受信感度の測定を行うことができます。WLAN搭載製品の最終的な使用環境下でのRFパフォーマンスの確認が可能です。



ETSI Regulatory Test 概要

ETSIでは、もともと送信電力やスプリアス等を試験対象としており、パワーメータやスペクトラムアナライザで測定可能でした。しかし2015年より“Receiver Blocking Test”が追加され、対向装置として **Signaling Unit or Companion Device**が必要になりました。この試験項目では「**最小帯域幅**」および「**最低データレート**」という特定の条件下で通信しながら、Packet Error Rate(PER)を算出することが求められるため、MT8862Aのネットワークモードが効果的に機能します。

2020年9月からはEMC試験でも、PERが性能評価の指標として採用されており、Signaling測定器を必要とする機会が増えています。

- 最新規格番号

2.4 GHz帯 RF試験 : EN 300 328 V2.2.2

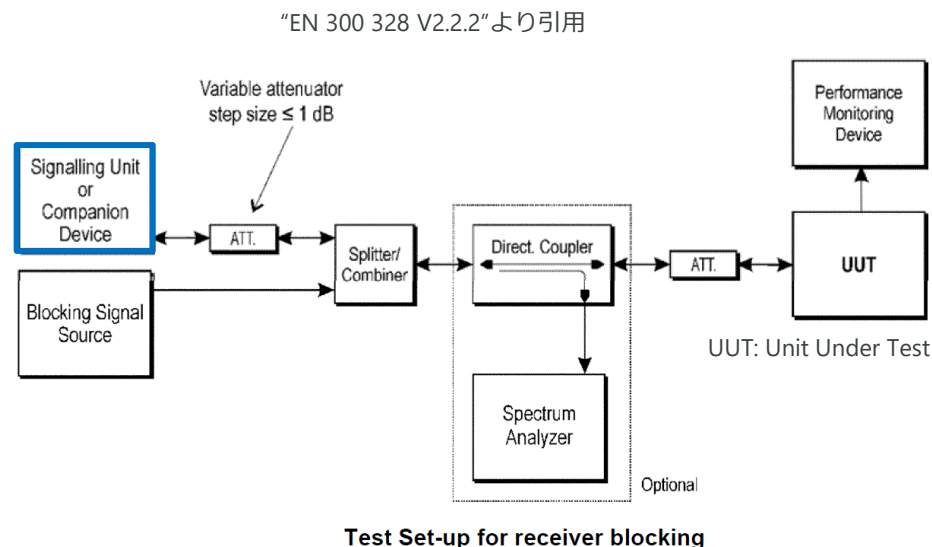
5 GHz帯 RF試験 : EN 301 893 V2.2.1

6 GHz帯 RF試験 : EN 303 687 V1.1.1

EMC試験 : EN 301 489-17 V3.3.1

Why MT8862A is better?

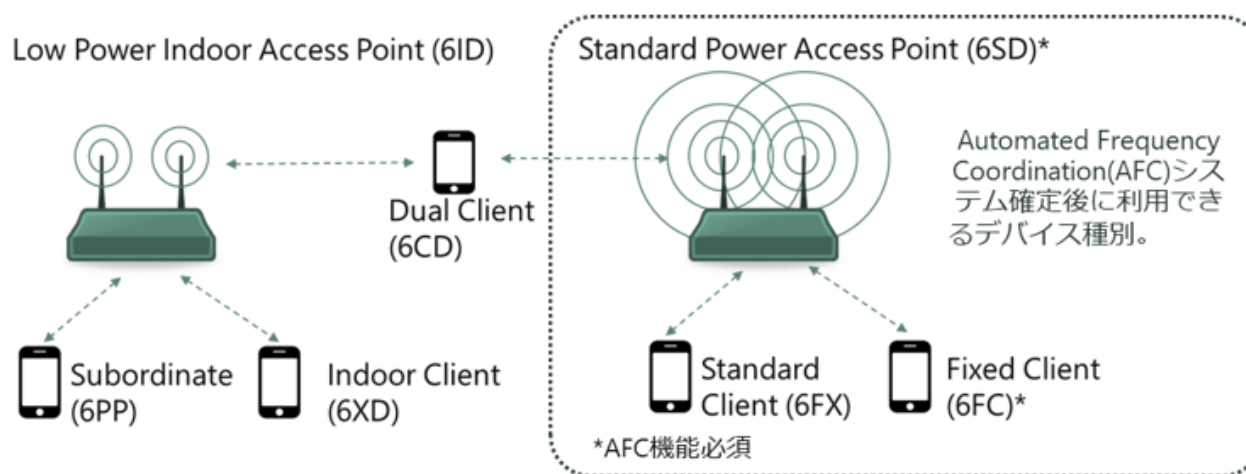
- Companion Deviceを使用して、任意の帯域幅およびデータレートへ制御するのは困難
- Signaling Unitを使わずに、PERを測るのも困難
- Signaling Unit以外の機器を使用して、通信状態制御や、通信品質モニタなどの試験環境構築をするには多くのリソースと時間がかかる



6 GHz帯 デバイスクラス-SP,LPI,VLP

6 GHz帯に対応している無線LANデバイス区分としてStandard Power (SP), Low Power Indoor(LPI), Very Low Power (VLP)が検討されていて、APからの情報でSTAのデバイスクラスおよび規制区分が決まりますが国ごとにその詳細はことなります。

MT8862Aでは、カントリーコードの設定と規格で定められている規制区分およびTPE(Transmit Power Envelope)等の設定が可能になります。



※6xxはFCCで規定されているデバイス区分

IEEEで定められているパラメータ例

Value	Description
0	Indoor Access Point
1	Standard Power Access Point
2-7	Reserved

- MT8862A背面のEthernetポートを使用することにより、外部サーバとのIPデータ転送が行えます。
- MT8862Aに接続した外部サーバとDUTに接続したクライアントPCの間でping等を使用したIPデータ接続確認が行えます。
- データレートなどのパラメータを固定した状態での接続確認・RF測定も行えます。
- MT8862AとDUT間での接続に、インターネット上の特定サーバへのアクセスが必要となる場合、接続維持目的にも使用できます。
- IEEE 802.11a/b/g/n/acで対応しています。



Appendix





Wireless Connectivity Test Set MT8862A

- RF入出力コネクタ : Main1、Main2、Aux (AuxはRF出力のみ)
- 周波数範囲 : 2.4 GHz~2.5 GHz、5.0 GHz~6.0 GHz、6.0 GHz~7.3 GHz (分解能 : 1 Hz)
- 受信レベル設定範囲 : -65~+25 dBm (設定分解能 : 0.1 dB)
- 送信レベル設定範囲 : -120~0 dBm (設定分解能 : 0.1 dB)
- 寸法 : 426(W) × 177(H) × 390(D) mm (突起物は除く)
- 重量 : ≤14 kg
- 電源 : AC 100~120V、200V~240V、50 Hz/60 Hz、≤350 VA
- 環境条件温度 : +5°C ~+45°C (動作時)、-20°C ~+60°C (保管時)

	802.11a	802.11b	802.11g
周波数範囲	5180 MHz～5885 MHz	2412 MHz～2484 MHz	2412 MHz～2484 MHz
オペレーションモード	-	-	ERP-OFDM
変調	OFDM (BPSK, QPSK, 16QAM, 64 QAM)	DSSS, CCK	OFDM (BPSK, QPSK, 16QAM, 64 QAM)
データレート	6, 9, 12, 18, 24, 36, 48, 54 Mbps	1, 2, 5.5, 11 Mbps	6, 9, 12, 18, 24, 36, 48, 54 Mbps
セキュリティ	WEP, WPA-Personal, WPA2-Personal, WPA3-Personal		

	802.11n	802.11ac
周波数範囲	2412 MHz～2484 MHz 5180 MHz～5885 MHz	5180 MHz～5885 MHz
帯域幅	20 MHz, 40 MHz	20 MHz, 40 MHz, 80 MHz, 160 MHz
MCS	MCS0～MCS7	MCS0～MCS9
FEC	BCC	BCC
PPDU Format	HT-mixed, HT-greenfield	VHT
Guard Interval	Long, Short	Long, Short
RF Chain	Single (SISO), 2x2 MIMO	Single (SISO), 2x2 MIMO
セキュリティ	WEP, WPA-Personal, WPA2-Personal, WPA3-Personal	

※一部の機能では特定のオプション設定が必要です。

	802.11ax	802.11be
周波数範囲	2412 MHz～2484 MHz 5180 MHz～5885 MHz 5995 MHz～7115 MHz *1	2412 MHz～2484 MHz 5180 MHz～5885 MHz 5995 MHz～7115 MHz *1
帯域幅	20 MHz, 40 MHz, 80 MHz, 160 MHz	20 MHz, 40 MHz, 80 MHz, 160 MHz, 320 MHz
MCS	MCS0～MCS11	MCS0～MCS13
FEC	LDPC, BCC	LDPC, BCC
PPDU Format	HE SU, HE TB	EHT MU, EHT TB
RF Chain	Single (SISO), 2x2 MIMO	Single (SISO), 2x2 MIMO
セキュリティ	WEP, WPA-Personal, WPA2-Personal, WPA3-Personal	WEP, WPA-Personal, WPA2-Personal, WPA3-Personal

※一部の機能では特定のオプション設定が必要です。

*1: この周波数範囲のみ、Main 1/2 コネクタの送信レベル設定範囲は-120～ -5 dBmになります。

	802.11bn
周波数範囲	2412 MHz～2484 MHz 5180 MHz～5885 MHz 5995 MHz～7115 MHz *1
帯域幅	20 MHz, 40 MHz, 80 MHz, 160 MHz, 320 MHz
MCS	MCS0～MCS13, 17, 19, 20, 23
FEC	LDPC, BCC
PPDU Format	UHR MU, UHR ELR
RF Chain	Single (SISO)
セキュリティ	WEP, WPA-Personal, WPA2-Personal, WPA3-Personal

※一部の機能では特定のオプション設定が必要です。

*1: この周波数範囲のみ、Main 1/2 コネクタの送信レベル設定範囲は-120～ -5 dBmになります。

MT8860Cとの比較



	MT8862A	MT8860C
WLAN接続性	802.11a/b/g/n/ac/ax/be/bn 320 MHz帯域幅 SISO / <u>2x2 MIMO</u>	802.11a/b/g 20 MHz帯域幅 SISO
オペレーションモード	ネットワークモード [AP/STA] ダイレクトモード [AP/STA]	ネットワークモード [AP/STA/AdHoc] ダイレクトモード
セキュリティ	<u>WEP, WPA-Personal, WPA2-Personal, WPA3-Personal</u>	-
RF入出力	Main In/Out (Nコネクタ) <u>x2</u> <u>Aux Out</u> (Nコネクタ)	Main In/Out (Nコネクタ) Interference In, WLAN Ref In (Nコネクタ)
RF最大出力レベル	0 dBm [2.4 / 5 / <u>6 GHz</u> 帯] *	-3 dBm [2.4 GHz帯] / -8 dBm [5 GHz帯]
制御ソフトウェア	Webブラウザでの制御GUI	MS Windows アプリケーションソフト
リモートインタフェース	Ethernet (<u>VXI-11/HiSLIP</u> /Raw)	GPIO, Ethernet
リモートコマンド	MT8862A Native	MT8860C Native
IPデータインタフェース	<u>Gb Ethernet (11acまで)</u>	-
フレームキャプチャログ	<u>pcap 出力</u>	-
サイズ	1MW 4U 390 mm	3/4MW 4U 350 mm

緑文字：改善点、太字：変更点

*Aux Outコネクタ

- 802.11n/ac/ax/be/bn, 2x2 MIMOおよびAP/STAのセキュリティ接続に対応し測定が可能なDUTが増えました。
- RFポートのTX/RX分離に対応、最大出力レベルも強化し、OTA環境の測定がより便利になりました。
- 制御ソフトウェアを一新し、より簡単にDUTの接続から測定を行えるようになりました。
- IPデータインタフェースの搭載により、再現性のある環境下でのIP導通試験が行えるようになりました。
- フレームキャプチャログに対応し、メッセージングのロギングが可能となりました。

IEEE 802.11bn Option Test Coverage

(IEEE 802.11bn Draft 2.0)

IEEE					MT8862A
Category	Chapter	Title	DUT	PPDU	Support
Transmit specification	38.3.26.1	Transmit spectral mask	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓ ^{*1)}
	38.3.26.2	Spectral flatness	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓
	38.3.26.3	Transmit center frequency and symbol clock frequency tolerance	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓
	38.3.26.4.2	Transmit center frequency leakage	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓
	38.3.26.4.3	Transmitter constellation error	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓
	38.3.26.4.4	Transmitter modulation accuracy (EVM) test	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓
Receiver specification	38.3.27.2	Receiver minimum input sensitivity	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓
	38.3.27.3	Adjacent channel rejection	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓ ^{*2)}
	38.3.27.4	Nonadjacent channel rejection	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓ ^{*2)}
	38.3.27.5	Receiver maximum input level	AP/STA	UHRMU, UHRELRL	✓

*1) ネットワークモードでは±160 MHzまで、ダイレクトモードでは±480 MHzまで。
プレアンプルパングチャリングには対応していません。

*2) 信号発生器（シグナルジェネレータ）が必要です。

IEEE 802.11be Option Test Coverage

IEEE						MT8862A
Category	Chapter	Title	Detail	DUT	PPDU	Support
Transmit requirements for PPDU sent in response to a triggering frame	36.3.16.3	Pre-correction accuracy requirements	Transmit power and RSSI measurement accuracy	STA	EHTTB	✓
			Carrier frequency offset error	STA	EHTTB	✓
			Transmission start time	STA	EHTTB	✓
Transmit specification	36.3.20.1	Transmit spectral mask		AP/STA	EHTMU, EHTTB	✓ *1) *2) *3)
	36.3.20.2	Spectral flatness		AP/STA	EHTMU, EHTTB	✓ *1)
	36.3.20.3	Transmit center frequency and symbol clock frequency tolerance		AP/STA	EHTMU, EHTTB	✓ *1)
	36.3.20.4.2	Transmit center frequency leakage		AP/STA	EHTMU, EHTTB	✓ *1)
	36.3.20.4.3	Transmitter constellation error		AP/STA	EHTMU, EHTTB	✓ *1)
	36.3.20.4.4	Transmitter modulation accuracy (EVM) test		AP/STA	EHTMU, EHTTB	✓ *1)
Receiver specification	36.3.21.2	Receiver minimum input sensitivity		AP/STA	EHTMU (Only Single-User)	✓
	36.3.21.3	Adjacent channel rejection		AP/STA	EHTMU (Only Single-User)	✓ *4)
	36.3.21.4	Nonadjacent channel rejection		AP/STA	EHTMU (Only Single-User)	✓ *4)
	36.3.21.5	Receiver maximum input level		AP/STA	EHTMU (Only Single-User)	✓

*1) EHTMU (multi-user) Tx 測定は非対応

*2) EHT PPDUパングチャリングは非対応

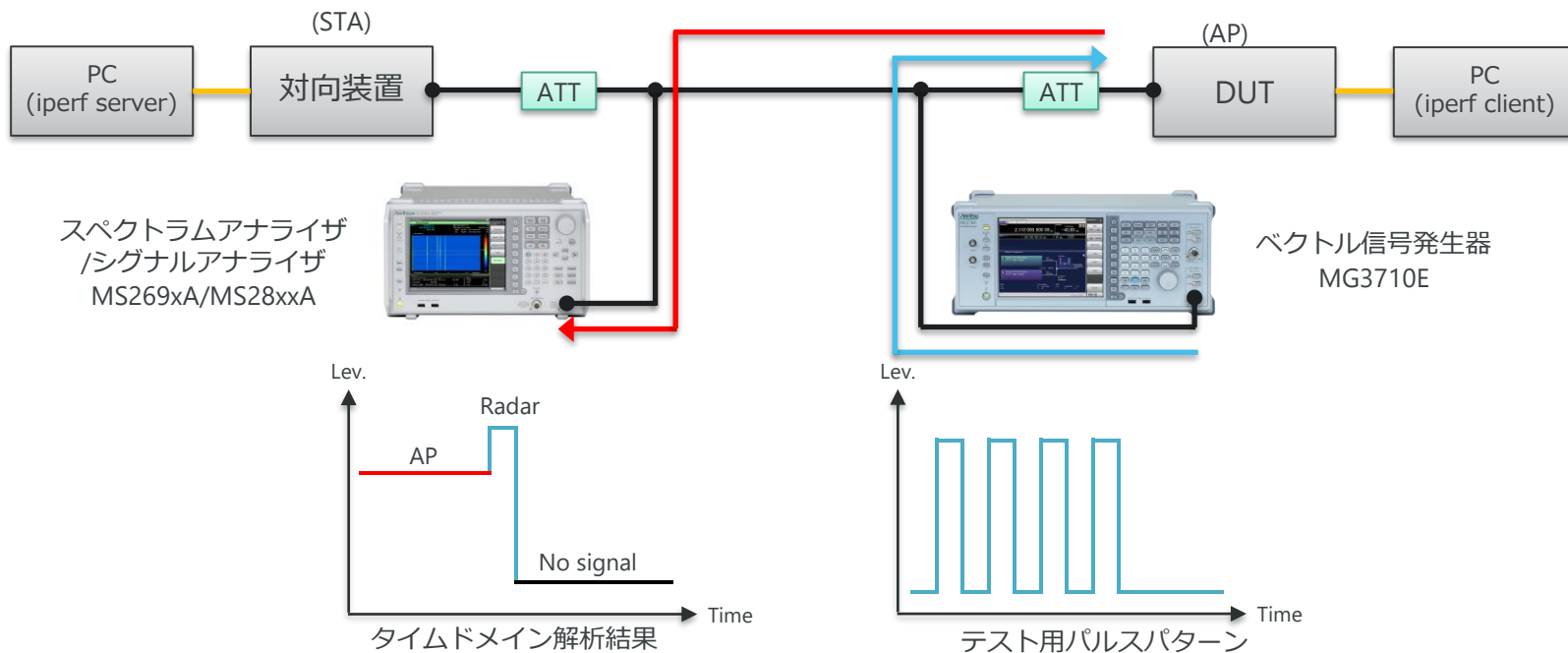
*3) ネットワークモードでは±160 MHzまで、ダイレクトモードでは±480 MHzまで(EHTTBの場合±160 MHz)

*4) 信号発生器 (シグナルジェネレータ) が必要です。

5 GHz帯 DFS試験

5.3 GHz帯(Ch52-Ch64[W53/U-NII-2A])/5.6 GHz帯(Ch100-Ch144[W56/U-NII-2C])のWLANでは、同じ周波数帯域に気象レーダや船舶用レーダなどが利用されているため、それらの信号を検出した際に、信号衝突を回避する技術「動的周波数選択（DFS：Dynamic Frequency Selection）」の対応が義務付けられています。

ベクトル信号発生器 MG3710Eと波形パターン製品を組み合わせることで、5 GHz帯のWLANデバイスに対して規定されている、日本国の電波法、FCC、ETSIの各規格に沿ったDFS試験が実施できます。



- Anritsu Website
 - カタログ、製品紹介等のダウンロードが行えます。
 - どなたでもご利用いただけます。

<https://www.anritsu.com/ja-JP/test-measurement/products/mt8862a>



製品概要	ソリューション	評価事例	ライブラリ
製品カタログ	製品カタログ		リリース日
アプリケーションノート	ワイヤレスコネクティビティテストセット MT8862A		2024/10/10
製品紹介			
リーフレット			

- My Anritsu
 - 取扱説明書、ファームウェア、ツール等のダウンロードが行えます。
 - My Anritsuアカウントの作成と製品の登録が必要です。

<https://login.anritsu.com/signin?>



